

ISSN・0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第3回)

PROCEEDINGS OF THE 3rd INTERNATIONAL CONFERENCE

ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN

(1979)

国文学研究資料館

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 3rd INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1979

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, Japan 142

わろ国

目 次

あいさつ	市 古 貞 次	3
スナップ		7
研究発表		11
日本の近代文学と中国作家	鄭 清 茂	11
戦前台湾に於ける日本文学		
一西川満を例として	張 良 澤	23
『夜の寝覚』構造分析の小論	ケネス・リチャード	40
西洋人の歌舞伎史	中 村 哲 郎	55
子規の晩年の短歌	ジャニー・バイチマン	65
『山の音』における「切り」と「合わせ」のテーマ	鶴 田 欣 也	74
シンポジウム		87
民間伝承（フォークロア）と文学		
	司会 白 田 甚 五 郎	
	講師 三 隅 治 雄	
	〃 リチャード・マッキノン	
記 録 編		125
研究集会日程		125
研究集会の経過		126
参加者名簿		130

あ い さ つ

開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

日本文学に関する研究集会については、日本の国内では日本文学協会、全国大学国語国文学会などを初めとして、上代、中古、中世、近世、近代という時代による学会、或いは和歌、俳諧、説話等々のジャンル別の学会など、およそ二十いくつの学会があり、そういう学会で研究発表が行われております。しかし、広い視野に立つての国際的な研究集会というものは、これまでほとんどありませんでした。

そこで私どもは、海外からのかねての御希望も伺っておりましたので、一昨年（1977年）に第1回の国際集会を開きまして、昨年第2回を開き、今日は第3回目ということになります。何分にも、私ども、こういうような国際的な集會に慣れておりませんので、企画その他にわたって、不十分な点が多々あるとは思いますが、御参加下さった方々の御感想を承りますと、大体において好評でして、多くの方々から喜んでいただいた、と伺っております。これは、企画いたしました私どもにとりまして大変嬉しいことであり、有難いことであります。ここに第3回の集會を開くことができましたのも、ひとえに多くの方々御激励、御支援の賜物であると存じ、御参加、御協力下さった方々に厚く御礼申しあげたいと思います。

国文学研究資料館と申しますのは、1972年の5月に設けられた、大学の共同利用の機関の一つでして、その主な事業をかいつまんで申し上げますと、現在残っている、明治元年以前、1868年以前の日本文学に関する文献資料を、国の内外を問わず広く調査いたしまして、そういうテキストをマイクロフィルムに収め、研究者の方々に公開し、利用していただくというのがその目的の一つでございます。

もう一つは、日本文学に関する最近の研究情報（研究文献）などを広く集めて、これを整理して研究者に提供し、利用していただくということで

す。今日、日本文学の研究は、非常に盛んでして、国内について申しますと、年々発表されている研究論文は非常に数にのぼっております。最近20年間の研究論文の数は約10万点になるかと思われます。また、毎年毎年図書として出版されるものは、1年間に大体500部くらいに達しており、最近ではもう少し多いかもしれません。20年間ということになると、1万部以上という、膨大な数にのぼるわけです。

こういう非常に沢山の研究情報のうちで、どういう文献がいつ、どこで発表されているか、また、そういう資料を見るのにはどこへ行ったらいいか、ということは、現在我々研究者にとって大変困難な問題になってきています。このような、情報過多に対応する方策は、今日あらゆる学術研究において、さしせまった問題としてとりあげられており、さまざまな情報処理の研究が行われております。

国文学においても、そのような問題に真剣に取り組まなければならない時期にきていると思われます。私どもは、そういうことに応えるために、コンピューターを使って、能率的に情報を処理することを考えております。なるべく近い将来に、皆さんに、そういうものを使っての情報の所在、或いは性質などについて御利用いただけるようにしたいと思っています。

要するに、国文学研究資料館は、文献・資料の研究調査、収集、研究情報の収集や整理などを中心とした、日本文学の研究センターであります。さらに私どもの収集・整理した資料を利用して、共同研究を行い、日本文学の研究の進展に貢献したいと考えております。

また、国内の研究者ばかりではなくて、外国から来られた研究者の方々にも利用していただきたいと考えております。そして、広く、世界文学の中における日本文学の意義・特質などの問題を御一諸に考えてゆきたいと思ひます。そうする事によって、文化交流にも寄与してゆきたい、というのが私どもの念願であります。

外国から来られた方々は、研究上いろいろな御不自由があるとお察しし

ております。そういう種々の困難についても、御相談くだされば、できる限りの御便宜をはかりたいと思っておりますので、どうか遠慮なく申し出ていただきたいと思います。

本日の研究集会は、以上のような本館設立の趣旨と目的に添って、内外の多くの研究者による研究発表と討論によって、研究者お互いの意志疎通をはかり、或いは国際交流を深めてゆくためのものであり、広い視野から、日本文学研究の発展をはかるという意味を持って開かれたものであります。今年もまた、100名以上の方々が本会に御参集下さいました。私どもとしては本当に有難く、心から歓迎の意を表するとともに、御礼申しあげたいと思う次第です。

終りに、当分の間、私どもは毎年11月と決めて、この集会を定例的に催すつもりですが、会の運営や、本館の利用などの問題につきましては、御意見なり御忠告なりをいただければ幸いに存じます。

簡単ですが、一言御挨拶申しあげます。

国文学研究資料館長

市古貞次